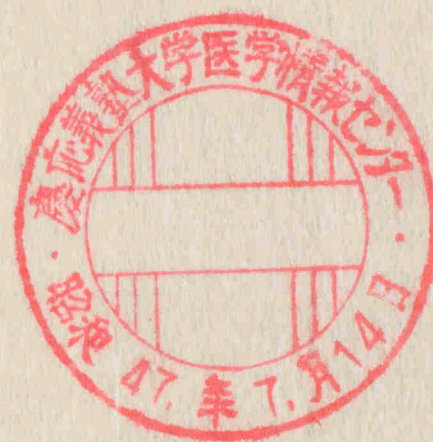


眼科摘要

六

496.2
Ga-2
6

No. 886



富士川文庫

3172

眼科摘要卷之六

荷蘭

朋百般默兒埕兒法爾篤鈔

佐倉

佐藤 舜海 閱
倉次 元意 譯

角膜穿孔

小瘍角膜ヲ穿テ其所ヲ頽敗スレハ即穿孔ヲ
ナス其孔ヨリ水晶體硝子液紅彩脫出シ眼球楕
圓ヲナス或ハ水晶體速ニ流出スル者アリ漸
以テ流レテ恰モ癭瘡ノ如キ形ヲナス者アリ共
ニ遂ニハ眼球扁平ニシテ縮リ視力ヲ失フ

角膜鰥倨

是レ潰瘍ノ轉歸ニテ、角膜嘗テ稀薄トナリレ所、
眼球ノ努力ニ應シ難ク、膨脹シテ突出スル者ヲ
云フ。而ノ輕重ノ度アリ、又角膜穿孔ニ繼發スル
アリ、而ノ多クハ此症癰痕ヲ以テ治シ、僅ニ斑
翳ヲ遺ス。

此ノ鰥倨將ニ發セントスルノ狀アレハ、紅彩
ノ鰥倨中ニ陷ントスルノ勢ヲ制スヘシ、則莖莖
水ヲ點滴シ、眼蓋ノ上ヨリ鰥倨ノ所ヲ軟々壓
擦スレハ、時アリテハ全治ヲ得ル者アリ、其他ノ

處置ハ、病者ヲ仰卧セシメ安靜ニ致シテ、眼ヲ閉
令セシム、輕キ消焮法ヲ行ヒ、後發ノ諸症顯ル、
者ハ是ヲ制スルニアリ。

紅彩前室ニ愈合スル者

角膜穿孔潰瘍ニハ、紅彩突出シテ、其所ニ愈合ス
ル者アリ、是ヲ紅彩前室愈合ト名ツク、又水晶囊
ニ愈合スル者ハ、是ヲ後室愈合ト名ツク、其前室
愈合ノ一部分ニアリテ、未タ日ヲ經サル者ハ治
シ得ヘシ、然レハ紅彩前面愈合スル者ハ、不治ニ
シテ盲ス、凡ソ此愈合、瞳孔ニ接近スレハ、愈々危

クレテ視力ヲ失ヒ易シ。但ニ紅彩ハ、彈力ヲ具フルヲ多クシテ、自ラ其愈合ヲ治スルノ勢アリ。若シ毛様靱帶ノ一ヲ愈合スル者ハ、瞳孔ヲ縮小セシムルノ法ヲ行テ治スヘシ。其他手術ヲ行テ是ヲ治スルハ、極メテ危險トス。

紅彩脫出

此症ハ角膜ノ一部損敗スル所ヨリ、紅彩外ニ向テ突出シ、而メ眼室ノ一部其所ニ止リ、以テ水晶液ヲ含蓄スル者ヲ云フ。紅彩未タ變性セサルノ際ハ、是ヲ名ツケテ真突出ト云フ。角膜ノ潰瘍、或

ハ損傷ニ由テ起ル者ナリ。而メ突出ハ、紅彩ノ大部、小部、是ニ羅ルヲアリ。若シ紅彩ヨリ滲出物ヲ出シテ、是ヲ角膜ニ致セハ、則角膜紅彩相愈着ス。紅彩ハ神經ニ富ムヲ以テ是ヲ病ム者、通例劇痛ヲ顯シ、其痛ニ延テ前頭ニ及フ者ナリ。若シ突出スル所ノ紅彩、或ハ挫折セリ。或ハ治法宜シカラス。或ハ刺戟ノ感傷ヲ患レハ、炎症ヲ生シテ復納シ難シ。遂ニ炎症ノ為メニ、滲出物ヲ致シテ、角膜ニ愈合スレハ、則瞳孔全ク失亡シ、或ハ縮小ス。稀ニハ紅彩ノ突出部、壞死ニ變シ、脱落スル者

アリ。然レ氏尋常ノ者ハ、嫩衝ヲ生シテ、其經過間、突出スル所ハ微細ノ脉綱ヲ作り、更ニ假膜状ノ者ヲ作りテ、是ヲ被覆スル者ナリ。若シ紅彩諸所ニ突出レテ、至小ナル者相併列スレハ、其形チ桑實状ノ形ヲ成ス。經久突出、角膜ニ愈合スル者ハ、其形ノ異ルニ應シテ名目ヲ立テリ。縦ハ蠅頭、釘頭、菓實頭ノ紅彩突出ノ如シ。然レ氏此ノ如キ名目ヲ分ツハ、錯亂ヲ生スルノ基ナレハ從ハサルヲ良トス。

治法

其脫垂ヲ防クニアリ。テスマルレス名ハ強膜ノ周圍ニ輕ク腐蝕方ヲ行テ、鴻益ヲ得タリト云一リ。然レ氏通例安靜ニ仰卧セシメ、眼ヲ常ニ閉テ、一切ノ刺衝ヲ禁スルヲ良法トナス。是異論ノ非ル一法ナリ。手術ヲ行テ是ヲ復納スルハ捨テ用ヒス。

角膜化成

是實ハ紅彩全部、或ハ其一部突出シテ圭状ヲナシ、或ハ球状ヲナシ、癰痕状ノ假膜ニテ被覆セラレ、者ナリ。故ニ角膜變性ニ由テ生スル曇暗ト

ハ異ナレリ。昔者。角膜葡萄腫ト名ツクル者ハ。形葡萄状ヲナシテ。角膜變性スル者ヲ云フナリ。晩近ニ至テハ。其名目混シテ。他病オモ亦此名ヲ以テ呼フ者アリ。故ニ名實相應セス。テ錯亂シ易シ。故ニ方今ハ葡萄腫ノ名ヲ以テ呼ハサルヲ良トス。只治効ノタメニ緊用ナルヲニ基キ名目ヲ立ツヘシ。ロツセルハ三症ニ分ツ。專テ治効ニ益アルヲ以テナリ。

其一全角膜化成

是特ニ手術ヲ以テ去ルヘシ。

其二不全角膜化成

是角膜ノ一部。病ニ犯サレサル所アル者ナリ。然レ此角膜。瞳孔ノ邊緣ニ愈著スレハ。術ヲ以テ新タニ瞳孔ヲ開キテ。是ヲ治スヘシ。

其三一部角膜化成

是紅彩ノ一部突出シテ。瞳孔正圓ヲ成サハル者ナリ。病ニ罹ル所ハ物ヲ見ルニ明了ナラス。由テ術ヲ企テ瞳孔ヲ造ルヲ緊要トスルヲアリ。

角膜化成スレハ。瞳孔突出シテ。假膜ニテ是ヲ覆

ニ、以テ角膜孔ヲ穿テシテ充テ、其所ニ水樣液ヲ蓄テ、而メ眼筋ト眼中ニ在ル諸物、縮力ヲ恣ニシ、紅彩更ニ突出セシトスルノ勢アリテ、遂ニ突出スル者ナリ。

眼瞼、光輝、睫毛等、常ニ其所ヲ刺衝シテ以テ紅彩腫脹ヲ致ス、其腫脹スルハ、一ハ血積ニ由リ、一ハ滲出物ニ由ル、今更ニ成形物ヲ生シテ、嘗テ消散セシ組織ニ替リテ、假膜ノ如クナリテ、角膜組織ノ欠乏スル所ヲ補フ者ナリ、故ニ此ノ假膜ヲ切除スルハ、其滲出ノ生スル輕重度ニ從テ、其切除

スル所ヲ補ス、若シ刺衝止メハ、化成萎縮シテ陷リ、硬シテ透明ナラサル物ニ變シ、或ハ其一所給養スル所アリテ、潰瘍反復シ來ル者アリ、其反復スル所ハ、遂ニ穴ヲ鑽孔シテ、角膜荒敗セラル、ニ至ル、又化成ヲ切除スル時ニ於テ、水晶體碎ル者アリ、是他ナシ、嘗テ溶解セラル、者ト、水晶囊、紅彩ト愈合シアル者トニ由ルナリ、又硝子體、破ル、等、合併症アル者ハ、化成ヲ切除スルハ、益々不幸ニ陷ラシマルナリ、是眼ノ後室ノ諸部ヲ頽敗スルニ由テ失明スルハナリ、蓋シ失明ハ網

膜ノ麻痺ト、透明物ノ曇暗ニ變スル者トニアリ。
化成ノ形狀ハ、膨脹ノ形キニ由テ名ツクヘシト
タリ。トナル者ハ球ノ如ク「バス」トテハ先キ尖
レリ。而メ強膜、紅彩、水晶體ノ突出スル度ニ從テ
其形ナラ異ニス。化成ノ色ハ、新舊ト、合併病ト、黒
色ノ厚薄ニ從テ同シカラス。多クハ赤色、灰白色、
白色、黃色ナリ。而メ又間色ノ者アリ。
口ツセル「ルナチ」共ニ人名ニハ神經化成ニ基キテ、左ノ
如ク區別ス。

其一、全化成

甲 球状化成

即後室ノ水出テ、此状ヲ成ス者ナリ。

乙 稠厚化成

小兒ニ多ク見ル者ニシテ、後室ノ愈合ニ出ル

者ナリ

其二、所化成

甲

角膜康平ノ所、一部突張スル者ナリ。

乙

角膜康平ノ所、一部突張セサル者ナリ。

其三、化成角膜、曇暗トナリ膨脹スル者ニシテ
紅彩ハ、其災ニ罹ラサル者ヲ云フ。

甲 透明化成

是角膜ノ損傷セサル者ナリ。

乙 透明化成、角膜薄クナリ、其所潰瘍ヲ生シ、

是ヨリ紅彩突出スル者、則角膜貌倭屈ト名ツ

クル者。

強膜突出ハ、已ニ過半強膜纖維ノ離間ト、軟化

ノ條ニ於テ論シ、又脈絡膜突出ハ、強膜ニ尤抵

スルノ力減スルノ條ニモ論セリ。

治法

化成突出已ニ生スル者ハ、只手術ヲ用テ其突出

スル所ヲ去ルノ一術ノミ、然レモ未タ生セサル

前、縦ハ角膜潰瘍、紅彩突出ノ治法、宜シクシテ

是ヲ豫防スルヲ緊要トス。

角膜層ノ創、角膜損傷、角膜挫傷、角膜

異物

其一、角膜ヲ挫傷スルコト輕微ニシテ、只外表ニ

ノミアル者ハ、其傷ヲ受クルエヒトリ、ム剥脫スレ

ハ自ラ愈エ、其傷ノ尤モ甚シキ者ハ、角膜ニ燠衝

ト潰瘍トヲ生シ、假令、良工ノ醫術ヲ受ルト雖モ

失明ス、若シ燠衝深ク、網膜ヲ犯セハ、盲ヲ免ル、

コト能ハス。

治法

冷水ヲ以テ眼ヲ清潔ニナシ、眼中異物アレハ、細
カニ探リ是ヲ除キ、而テ防翹治法ヲ行フ、
其二又創

若シ角膜ヲ貫通セサル者ハ、通例速ニ能ク愈ム、
若シ傷口ヲ闊ケハ、是ヨリ水様液流レテ紅彩脫
出シ、其創愈ルニ從テ、紅彩本位ニ復ス、或ハ二三
日ニシテ全治ヲ得ルヲアリ、若シ創大ナル者、或
ハ紅彩水晶體ノ創ヲ合併スレハ、是等ノ物突出

ス。

豫後

甚タ凶ナリ、突出セサル者モ、創縁ノ形ニ從テ豫
後ヲ論スヘシ、創縁破碎セラル、者、或ハ片々ヲ
ナス者ハ、潰瘍ニ轉シ易キ性アリ。

治法

創ノ微ナル者ハ、安静ニ保護シ、外感ヲ避ケ、輕キ
防翹治法ヲ屢ス、刀創ニハ、其創縁ヲシテ能ク相
連接セシムルニ注意シ、目ヲ閉チテ而テ寒水ヲ
菴ス、眼室ニ溢出スル所ノ血ハ、吸収セララル、者

ナリ。紅彩ノ層間ニ突出スル者ハ、先ツ是ヲ復納
シテ、而メ後ニ創ヲ連接セシム。麻醉ノ煎劑點眼
水ハ、吸収ノ機ヲ奮發セシムルヲ最モ大ナリ。又
軟々眼瞼ヲ按撫シ、卒然ト眼ヲ開キ、光輝ヲ射入
セシムルモ效アリ。若シ脫出スル所大ニシテ、吸
収機ヲ妨ル者ハ、剪刀ヲ以テ是ヲ切斷スヘシ。則
跡ニ殘リシ所ハ、自ラ吸収セラル、ナリ。腐蝕劑
ハ、只經久頑麻ノ症ニノミ貼スヘシ。但シ是ヲ用
ルハ特ニ注意セスニハ非ス。

其三刀創

此創ハ輕キニ非ス。如何トナレハ眼ノ深所ニ入
レハナリ。極寒ノ冷水ヲ用テ、荒敗ノ性アル瘀衝
ヲ防クニアリ。多クハ水晶體ノ曇暗ヲ遺シ、或ハ
眼球ノ給養不足ヲ遺ス。

其四異物

角膜ノ表面ニ牢著シ、以テ甚タ刺戟スル者ハ、醫
者速ニ是ヲ去ラスニハ非ス。或ハ數年眼中ニア
リテ、少シモ障礙ヲ致サ、ル者アリ。若シ異物深
ク組織中ニ入レハ、剝シキ瘀衝ヲ起シ、是ニ由テ
發スル所ノ反應症、眼ノ全部ニ及フ。或ハ異物、化

膿ニ乗シテ救ケ去ルヲアリ。或ハ異物、眼瞼ニ深
ク入りテ動カス、以テ膿瘡ノ誘因トナルヲアリ
或ハ薄膜ヲナシテ異物ヲ保護スルヲアリ。凡ソ
此者ヲ去ルノ後モ、病者尚異物ノ眼中ニ止ルカ
如キ知覺ヲ覺フ、是異物ヲ救クタメニ、割ル所ノ
創口ニ由テ然ルナリ、疼痛猶止マス、異物小ナル
者、又ハ眼ノ知覺機充進スレハ、是ヲ鎮靜シ難キ
者、或ハ是アルヲアリ。

治法

先ツ「ローフ」鏡ヲ以テ、異物如何ノ状ヲナシテ眼

中ニアルカヲ鑒證スヘシ、而メ適當ノ治法、其行
ヒ易キ者ヲ撰テ、眼ヲ著シク刺衝セスシテ、是ヲ
掘リ去ルヲ要ス、凡ソ碎片物ハ、鑷ヲ以テ救クニ
宜シ、若シ嚴シク掛入シテ、鑷ヲ用ルト雖モ、救フ
能ハサル者ハ、銳利内障眼針ヲ以テ是ヲ掘リ出
スノ術ヲ試ムヘシ、然レ止ムヲ得サルノ
術ニ出ルナリ、好テ成スヘカラス、或ハ異物ノ掛
入スル者ニハ、其所ヲ割開シテ取り去ルモ可ナ
リ、異物出ルノ後ハ、防歟法、刺絡水蛭、灌水法等ヲ
應用スヘシ。

其五火傷

舍密樣毒物ハ、眼ノタメニハ甚タ危險トスヘシ。
沸騰物ハ、眼中ニ觸ルレハ「エビトリ」剥脱シ、眼
曇暗トナル。其稍劇シキ者ハ、頗ル深所ヲ立地ニ
傷害ス。生石灰ハ、化膿ヲ起シテ曇暗ヲ遺ス。礬酸
碎石ハ、通例立地ニ眼ヲ荒蕪シテ、輕重アリト雖
凡、多クハ相愈令ス。燭火モ亦眼ヲ著リ傷害ス。
治法

注意シテ一切ノ舍密樣物ヲ去ルニアリ。但シ舍
密親和ノ者ヲ撰ミ、生石灰ノ眼ニ入リシモノハ、水ヲ用ヒサルカ如シ、

相飽合セシノ以テ其患ヲ去ルヲ良トス。油類ハ
頗ル適當ス。小片ノ石灰、眼中ニ牢著スレハ、稀薄
塩ヲ以テ、其所ニ反復シ點シ、是ヲ消スニアリ。之
レ鹽酸ト石灰ト飽合シテ鹽酸加ル基トナリ。則
害ヲ至サスシテ、拭ヒ去ルニ易ケレハナリ。始メ
ハ防燠法ヲ行ヒ、化膿ヲ生スルニ至テハ、水銀膏
ヲ摩入シ、寒罨法ヲ行フヲ良トス。

角膜圭狀突起

此症時アリテ燠衝ナク發スル者アリ、角膜ノ膨
脹シテ圭狀ヲナス者ナリ。其圭狀或ハ尖端廣ク

シテ倒サセニ生スルカ如キ者アリ、其生スルヤ
漸ヲ以テシ、或ハ一時ニ發大シ、極ニハ則自若
トシテ動カサル者アリ、其主ノ大サハ、ニステレ
ープロヨリ、三ノテレープ隆起シ、其中央薄クシテ
曇暗ニ輕重ノ度アリ、稀ニハ此病、黑障眼、灰白
内障眼ヲ令併ス、紅彩突出ヲ兼ヌル者ハ、傍側ヨ
リ之レヲ見レハ、其狀チ明カニ圭狀ヲ究ムヘシ
其色、淡水色ニシテ灰白ナル者アリ、光澤強キ者
アリ、之レ光輝ヲ破ル度ハ、異ルニ由テ生スル者
ナリ、

此病ノ原因ハ、恐ラクハ毛様鞏帶ニ渉ル神經障
碍セラレテ、角膜ニ及ホスノ力十分ナラサルニ
由ルナルヘシ蓋シ給養不足シ、其一部軟化スレ
ハ、此病ノ誘因トナリテ、以テ圭狀突起ヲ致ス、眼
ノ給養障碍セラルニ由テ、本病ヲ將出スルヲ
アリ、是其本因トスヘカラス、只其誘因トスヘシ、
其他萎黃病、肺結節、腺病ヲ令併スル者アルヲ見
ル、此病多クハ已ニ幼童ノ時ヨリ萌シテ、漸々ニ
生スル者アリ、
自覺症

視力障礙セラレ、或ハ一物數形、或ハ物ニ邊緣ノ色アルヲ見ル、或ハ萬像明了ナラス、或ハ昏迷ヲ生シ、或ハ斜視ヲ致ス、

豫後

總テ凶ナリ、其原因ヲ究メテ、是ヲ去ルヲ能ハス、多クハ角膜乾燥ヲ致ス、

治法

始メハ収斂劑ヲ試ムヘシ、假令ハ明礬、銀、亜鉛、銅、キエルク、ス等ノ諸劑ヲ行フカ如シ、以テ其軟化セシトスルノ勢ヲ防クヘシ、効微ナキ者ナリ、是

ニ無子テ、時々針刺シテ水液ヲ泄ラシ、壓定巾ヲ行テ、是ヲ固定シ、ラウタニムヲ此時ニ點スルヲ良トス、其他數法ノ治療アリ、縦ヘハ術ヲ以テ瞳孔ヲ造リ、或ハ水晶體ヲ破碎ス、或ハ角膜ノ一片ヲ切斷スルカ如シ、或ハ消酸銀ヲ以テ輕ク摩擦スルヲ、毎日二三回ナルヘシ、或ハラウタニムヲ頻々病所ニ貼シ、或ハ幾那明礬等ヲ撒スルカ如シ、其外、此病ニ試ムヘキ者ハ、吐劑、下劑、沃陣劑、水蛭、腐蝕劑、沃陣膏、水銀膏ナリ、屢々此病ニ效アル者ハ、適度ノ突起眼鏡ナリ、

紅彩焮衝

特發ノ者頗ル稀レナリ。多クハ角膜、毛様鞏帶焮衝ニ合併ス。又脈絡膜ノ焮衝ヲモ、合併シ發スル者多シ。多クハ一眼ノミ病ニテ危ク、全治ヲ得ル者實ニ稀レナリ。病ノ起ル、或ハ其全部ヲ犯スアリ。或ハ其一部ヲ侵スアリ。故ニ全部ノ焮衝、一部ノ焮衝ヲ分テ、又病發ノ性ニ從テ是ヲ分テハ、特發ノ病トナシ、屬發病トナシ、或ハ外面ニ在ル者トシ、或ハ其深所ニアル者トナシ、或ハ惡液質、梅毒、瘰癧質、腺病、水銀病等ヨリ來ル者トス。

適切簡易ニシテ、治法ニ益アルヲ主トシテ之ヲ分テハ、急性、慢性ノ兩性トスヘシ。

急速病ハ、前發症ノ際短ク、紅彩少シク色ヲ變シ、角膜少シク濁リ、瞳孔ノ邊緣不平ニシテ、其縮張靈敏ナラス。此ノ如キノ症狀少間顯レテ、速ニ劇症蜂起ス。但シ深所ヲ侵ス焮衝ニ從テ輕重アリ。今血液輻湊著クシテ、其劇シキ者ハ、先ツ微糸血管破裂シ、以テ血液ヲ内方ニ溢出ス。則角膜ヲ遠リテ、赤縁ヲ顯スハ此症ナリ。紅彩ノ組織、鬱血ノタメニ腫脹シ、滲出物ヲ出シテ、其色ヲ變シテ水

晶體ニ及ホシ其色混濁トナル赤色ハ、血脉充張
スルノ輕重ニ關係シテ厚薄アリ、綠色ヲ顯スハ、
元來眼色青色ナリシ者、紅彩ノ前ニ當リテ、黃色
ノ水液ヲ出ス時然ル者ナリ、汚穢ノ灰色ヲ顯ス
ハ、本病ニ兼子テ角膜曇暗ヲ致ス時ハ然ル者ナ
リ、此ノ如ク色ノ異ルヲ知ルニハ、康平ノ眼ヲ以
テ、比較スレハ明カナリトス、凡ソ色ノ變スルハ
瞳孔邊緣ヨリ始マル、滲出物ハ、透明ニシテ是ヲ
出スヲ多ケレハ眼室廣カリテ、瞳孔モ亦膨大ス、
若シ溢出物、成形物多ケレハ、紅彩上ニ沈着シ、或

ハ水樣液中ニ混和シテ雲母ノ如ク、或ハ針尖ノ
如ク、瞳孔ノ後面ニ沈着ス、若シ葡萄膜ノ色膜、脈絡

裏層ノ一部破裂スレハ、後室愈合ノ原因トナリ、瞳

孔色ヲ變シテ、灰白汚穢トナル、又瞳孔鎖閉ノ原

因トナリ、瞳孔常ニ縮小ス、只同時ニ、脈絡膜ノ感

傷ヲ無スル者ノミ、瞳孔稍散大ス、蓋シ凶徴トナ

スヘシ、是脈絡膜ト網膜トノ根元、感傷シ、紅彩ハ

續發症トナリ顯ハルハナリ、大抵患ル者ノ他

側ノ眼ハ、反應症ニ由テ通例縮小ス、滲出物兼子

テ瞳孔ノ形ヲ變ス、痛風病者ニアリテハ、楕圓ト

ナリ、梅毒病者ニアリテハ兩角ヲナス、但シ之ヲ以テ推ス能ハサル

多クハ畸状ヲ見、又想像ノ飛蟲ヲ見ル、光輝ニ遇
一ハ視力衰フ、是等ノ症状ハ、皆紅彩ニ入ル所ノ
神經感傷ノ度ノ輕重ニ拘ワリテ異ルナリ、其他、
視力ノ障礙セラル、ハ、合併スル所ノ症状ニ關
係ス、縦一ハ水様液ノ混濁、水晶體外面ノ曇暗、深
所ニアル器ノ燃衝ニ拘ルカ如シ、
紅彩燃衝ノ劇度ノ症ハ、是ニ加ルニ角膜ヲ繞リ
テ赤縁ヲ顯シ、眼瞼ノ浮腫、發熱腸胃症、大便秘結、

精神ノ變革等ナリ、是等ノ復發ハ、七情變常ニ由
レル者ナリ、凡ソ紅彩燃衝、弥々劇甚ナレハ、疼痛
從テ益々甚シ、全頭ニ蔓延シテ殘ル所ナシ、其痛
ミ眼中ニ始セリ、初メハ刺スカ如ク、其後押スカ
如ク、終ニ張ルカ如ク、時アリテハ間歇進退ス、蓋
シ再感ノ胃寒ニ拘ハリ、神經系ノ刺衝亢進スル
ニ拘リ、或ハ眼神經ニ滲出物ヲ出シテ、其壓迫ニ
拘ル、凡ソ其疼ミノ劇甚ナル時ハ、夜間ニ在リテ、
一二日間留連ス、

角膜燃衝ヲ令併スレハ、角膜速ニ曇暗トナリ、紅

彩ノ顯症、委シク診シ得ヘカラサルナリ。
原因ハ、殊ニ男子、少年、癩麻質、痛風、梅毒等ナリ。
若シ梅毒ニ因スル紅彩焮衝ハ、頑固ニシテ經過
速ニ、豫後モ頗ル凶ナリ。後ニ之レヲ詳論スヘシ。
慢性紅彩焮衝
其根元ヨリ生スルハ殆ト察知スヘカラス。急性
ヨリ轉シ、又ハ續發病トナリテ来ル者ハ少ナカ
ラストス。大凡症狀急性ニ似テ、只其經過ハ緩慢。
顯症漸ヲ以テ生シ、遂ニ視力ヲ碍ケラレ、想像ノ
飛喪ヲ見ル。紅彩ノ色ヲ視ルニ、網膜病ト錯誤シ

易シ。○網膜病ハ、其康眼ニ比スレハ紅彩總テ病
決シテ變色ナシ、以テ辨別スヘシ。

性頑固ナリ。一ハ體格ノ原因、胃寒ヲ反復シ来ル
ニ由ル。純粹ノ間歇性ニハ、幾尼捏俊効アリ。若シ
根元ヨリ侵サル、者ハ外表ノ色變スルヲ少ナ
リ。又縮張モ略常ニ殊ナレリ。只斑點狀ノ滲出物
ヲ顯シ、其物或ハ糸ノ如ク、或ハ玉ノ如ク、或ノ節
ノ如ク、或ハ息肉狀ノ如キヲナス者アリ。

自覺症

始メハ自覺症ヲ覺フルヲナシト雖、漸ク合併
症ト、續發症トニ關係シテ生スル者ナリ。反應症

ハ、晩期ニ現ハル。而メ此及應症ノタメニ、或ハ滲出物ヲ出シ、神經刺衝セラル。其他合併症ノタメニ、視力ヲ妨ケラル、一著シ。

豫後

紅彩焮衝ハ、眼ノ危篤症トナスヘシ、輕キ單易性ニシテ、未タ日ヲ經サル者ハ、豫後吉ナリ。急性ノ者ハ、内部ヲ妨ケ、慢性ノ者ハ、再感ノ性頗ル多シ。

治法

直チニ有力ノ防焮法ヲ以テ是ヲ制スヘシ。刺絡水蛭、項ニ角法等ナリ。時ニハ此瀉血ヲ反復シ行

フヘシ。慢性ノ紅彩焮衝ニハ、項ノ吸角ヲ反復シ行フヲ良トス。其他布片ニ冷水ヲ蘸シ、眼上ニ置キ、暗室ニ居ラシメ、清涼ノ氣ヲ通シ、清涼蔬菜ノ食餌ヲ與ヘ、大使ヲ促シ、菲沃和、或ハ阿芙蓉ヲ貼シ、水銀膏ヲ塗入シ、或ハ葭苈ヲ點シ、葭苈四六ヲ二了ノ硬膏ニ和其他脚湯ヲ行テ宜ク誘導シ、項ノ打膿、發疹膏、發泡打膿方ハ效アリ、紅彩ノ焮衝劇甚ナル者ハ、針刺シテ水様液ヲ漏スヘシ、大ニ眼中機能ヲ變スル若シ外傷ニ因スル紅彩焮衝ナレハ、其初起ニ於テハ、寒罨法ヲ行ヒ、病者愈快ヲ

覺ユルノ間ハ止ム一カラス、其後亜ル尼加ヲ和
スル、鉛糖水効アリ、若シ滲出物ヲ出サントスル
微アレハ、先ツ中和鹽ノ下劑ヲ與ヘ、續テ甘汞ニ
阿芙蓉、或ハ矢鳩荅ヲ和シ與フ、若シ水銀ノ瞑眩
強キ者ハ、沃度加里ヲ以テ是ニ替フヘシ、
紅彩ノ焮衝輕キ者ハ、スグラヘ名アトロヒ子ヲ
點滴ス、若シ其劇キ者ハ是ヲ行フヘカラス、上ニ
論スル法方ヲ以テ其劇度ヲ制シ、焮衝去テ後ア
トロヒ子ヲ再ニ用ユレハ効アリ、然レモ及後シ
行ハサレハ効ヲ全フスルヲ能ハス、

此治法ハ體格ニ應シ、局所合併病ニ從テ變用セ
スハ非ス、

原因ニ由テ、紅彩焮衝ヲ區別スルノ論、

レルテニ名ハ、輕キ創傷モ亦紅彩焮衝ヲ發スル
者ナリト、然レモ屢損傷スルカ、又ハ惡液質ノ者
ニ非レハ、紅彩焮衝ノ原因トナラス、多クハ脉絡
膜焮衝、角膜焮衝ヲ合併ス、若シ創傷ノ紅彩焮衝
誘因トナル者ニハ、豫メ劇痛、嘔吐、腸胃症ヲ顯ス、
其溫度亢進シ、結膜勃張シ、全身異和ヲ覺ヘテ病
ナルカ如ク、且ツ發熱ス、此時ニ効アル者ハ、初頭

ニ灌腸法ヲ急ラ行テ効アリ、其後香竈精氣ノ蒸劑、縦ハハ亞兒尼加花、火酒等ノ如シ、是等ノ藥劑網膜滲透ノタメニ、麻痺ニ陷ントスルノ恐レアル者ハ早ク行フヘシ、滲出物造膿ニハ、甘永、遠志、針刺法應ス、

胃寒紅彩焮衝

胃寒後發スル所ハ、紅彩焮衝ナリ、特發スル者アリ、或ハ角膜焮衝、結膜焮衝、毛様鞅帶焮衝ヲ合併スル者ナリ、又他部ノ聖京倔ト合併ス、通例聖京倔ノ前兆先ツ顯レテ、其後紅彩焮衝ノ確証ヲ顯

ス、是ヲ治スルノ法、始メ聖京倔ヲ治スルノ藥劑ニテ、氣候ヲ適度ニシ、暗室ニ靜坐シ、眼ヲ被覆シ、皮膚ト腸ノ機ヲ奮發セシム、若シ多血質ニハ、全身局處、瀉血ノ兩法ヲ量リテ行ヒ、其後葦苈ヲ加ル水銀膏ヲ塗リ、甘永、吐酒石、抱氏發汗散ヲ内服セシメ、焮衝去テ後、打膿法ヲ項ニ行ス、

梅毒性紅彩焮衝

新舊兩性ノ梅毒アル者ハ、輕キ外因、縦ハハ損傷、胃寒、聖京倔、過度刺衝ノ如キ、少シク眼ヲ侵セハ必ス此焮衝ヲ致ス、凡ソ此紅彩焮衝ハ、多ハ一眼

ヲ侵シテ、始メ劇痛ヲ眼中ニ覺ヘ、其疼ニ前額ニ
及ホシ、日中ハ疼ミ少シク減ス、物ヲ見ルヲ明カ
ナラス、殊ニ微小ノ物ヲ辨スルヲ能ハス、夜間ハ
熱淚ヲ流シ、燭火ヲ見レハ疼痛劇シクシテ、續テ
諸症増進ス、病者此疼痛ノ夕メニ、通夜睡ルヲ能
ハサラシム、曉ニ至テ發作止ミ安靜トナル、凡ソ
此焮衝ハ、纖維素ニ富メル滲出物ヲ生シテ、小塊
トナリ、或ハ纖維狀ヲナシ、紅彩ノ兩縁ニ外牢著
ス、或ハ紅彩ノ組織中ニ滲出シテ其色ヲ變シ、灰
白、或ハ斑點ヲ顯ス者アリ、其滲出物ノ生スルヲ

速ニシテ、一夜間ニ全ク形ヲ成ス者アリ、而メ水
ヲ含マス、他性ノ如ク化膿ニ移ルノ性ナキ者ナ
リ、然レモ此滲出物ハ、立地ニ形ヲ成スノ性アル
ヲ以テ、組織ヲ成出シテ一物ヲ眼中ニナス者ト
ス、但シ梅毒ニ因セサル紅彩焮衝タリト雖モ是
ニ類シラ形ヲ顯ス者アリ、故ニ其實ハ辨別シ難
シトス、凡ソ此ノ如キ病性、治療ヲ怠レハ其病ニ
延ビテ脈絡膜ニ移リ、又或ハ他眼ヲ感傷スルニ
至レハ、則視力ヲ著シク妨ケテ、或ハ失明シ、或ハ
眼球萎弱ヲ以テ了ル

治法

内服ニハ、甘永阿芙蓉ノ散劑、但シ毎包半匁ノ量
トナシ、毎日四包ヲ與ヘ、病者ハ床上ニ在テ身ヲ
動スヘカラス、若シ劇痛堪ヘカタクキ者ニハ、瀉血
ヲ行ヒ、眼圍ヨリ額上ニ及フマテ、水銀膏ニ、阿芙
蓉越幾私ヲ和スル者ヲ多量ニ摩入シ、勉期ニハ、
沃陣膏若シクハ沃度加里ヲ行フ、梅毒家ノ惡液
質トナリ、數年ヲ歷ル者ニハ、攻劇ニ屢置シテ其
毒ヲ制スヘシ、
慢性紅彩爛衝ハ、スコルヒウセ質ノ人殊ニ患ヒ

易シ、两眼共ニ患ヒ、或ハ两眼交番ニ患ヒ、眼中他
器ノ病ヲ合併ス、此症ハ滲出物雲母ノ如キ状ヲ
ナシテ、水様液中ニ漂フ如ク見ユ、然レハ其實ハ
角膜後面ニ附著スル者ニシテ、此滲出物ノタメ
ニ、紅彩愈著スル者トス、此慢性紅彩爛衝ノ治法
ハ、病者ノ體格ニ從テ方ヲ屢セスニハ非ス、豫メ
法則トナルヘキ者ヲ此ニ論スルヲ能ハス、若シ
滲出物水ノ如クニシテ、紅彩ノ後面ニ出ル者ハ、
吐酒石、或ハ「スチビナ」等ヲ用テ、吸收力ヲ奮發シ
是ヲ消散セシメ、又角膜ニ針刺術瀉水シテ、滲出物

ヲ漏スモ可ナリ。又防燃治法ヲ謹慎ニテ用ユヘ
シ、然ラサレハ害ヲ致スヲアリ、強壯劑ハ却テ効
アルヲアリ、又出血ノ閉塞ニ注意シテ、其排泄ヲ
促スヲ要ス。

瞳孔變形及數瞳孔

數瞳孔ハ、天稟ナル者アリ、生レテ後得ル者アリ、
生レテ後得ル所ノ者ハ、其形同シカラス、或ハ楕
圓、或ハ裂紋ノ如キアリ、此ノ如ク其形ヲ變シ、而
メ甚シカラサル者ハ、著シキ障礙ヲナサズ漸ク
本ニ復スル者アリ、天稟ニ出ル者ハ、瞳孔ノ數所

ニ開ク者アリ、外傷ニ因リテモ亦稀レニ見ル所
ナリ、然レモ障礙ヲ致スヲ少ナシ、又二瞳孔並ニ
開キテ、其齊シキ者ヲ見タリ、而メ縮張平人ノ者
ニ微シモ異ルヲナシ、

紅彩之去

其一、天稟ニ出ル者ハ、兩眼共ニシテ多クハ人間
系統ノ遺傳ニ出ル者ト見ヘタリ、多クハ全ク失
ワレテ、角膜横ニ流シ、強膜ト令界正シカラサル
者アリ、病者遠視ヲナシ、光輝銳烈ナレハ、物ヲ見
難シ、此病ニ經久スレハ、羞明漸ク減シ、眼底黑色

ナラス、只或ハ褐色、或ハ赤色ナリ、病者眼瞼ヲ少
ク開テ物ヲ見、尚オ頻リニ瞬ニテ、物ヲ見ルニハ
斜視ニテ、常ニ俯視ス、稀ニハ黑障眼ヲ致ス、此
ノ如キ眼ハ動モスレハ、熈衝ニ係リ易ク、而メ網
膜ナ知覺敏ナラス、
其二、生得ナリ、器械様ノ損傷ヲ受ケテ、紅彩溶解
ニ、續テ収縮ニ、遂ニ愈合スルナリ、凡ソ此ノ如キ
者ハ誠ニ稀ニナリ、是ヲ治スルノ法ハ、熈衝顯ル
ル間ハ、防熈法ヲ行ハスニハ非ス、末期ニハ日光
ヲ避ル所ノ眼鏡適當ス、

其他、紅彩ノ疾病少ニ顯ル、所ノ者ハ、紅彩震惕
紅彩痙攣、瞳孔縮小、瞳孔開張、瞳孔鎖合、瞳孔破裂
瞳孔創等ナリ、是等ノ病状、半ハ熈衝ノ轉歸ニ出
テ、半ハ神經ノ作用ニ出ツ、或ハ天稟ニ出ル者アリ、
而メ其甚ニキ者ハ、手術ヲ要スルヲアリ、是等
ノ如キニ至テハ、此一小冊ノ収ムヘキニ非ス、

[illegible]

存誠林先生藏板

泰西醫方二十四脈表

一枚摺

待醫法眼信良坪井先生譯

佩斯達篤氏內科書

全一百八卷

侍醫法眼信良坪井先生譯

新藥百品考

初編二冊
二編二冊

全四冊

大博士佐藤舜海先生譯

斯篇魯默兒
砲殘論

全二冊

大博士佐藤舜海先生譯

外科醫法

內編十五冊
外編廿二冊

金三十七冊

越中佐渡三良先生著

和蘭藥性歌

全二冊

東京耳井芳洲先生譯

醫療新書

全三十冊

倉次元意先生譯

眼科摘要

全部九冊

近刻

時醫法眼松本先生藏板

解剖羅旬語加類多

骨部

全一百八冊

西洋風画入

山内氏藏板

漢字和譯附

英語可出多

全部

洞海林健卿譯補

全部十八冊

穴衣篤兒藥性論

侍醫西學教頭蘭疇松本良順誌

養生法全三冊

隱士

樂齋山内豐城校閱補註

玄端

杉田先生譯

上中下

全部六冊

健全學

作樂戸知鷺先生譯編

西洋英傑傳

全六冊

河津孫四郎先生校正

御用御書物師

東京大門通難波町

發兌書林 英蘭堂 鳴村屋利助

